



図-5 2020年7月から2021年4月までの季節移動経路

この巣立ち雛からは、2020年7月から2021年4月まで秋から冬への越冬地への移動と再び春に繁殖地に戻ってくるまでの長期的な季節移動のデータを得ることができた（図-5）。夏はコロナ矢板や鬼怒川で採餌し、秋に碓川に移動した後、一度群馬県に2日ほど短期の移動を行ったが、その後再び、栃木県に戻り、それ以降は、群馬県、茨城県、東京都、千葉県へ長距離移動し、越冬地は千葉県の房総半島だということが明らかになった（図-5）。これから、この個体の秋～春までの長期移動経路について詳細を見ていく。





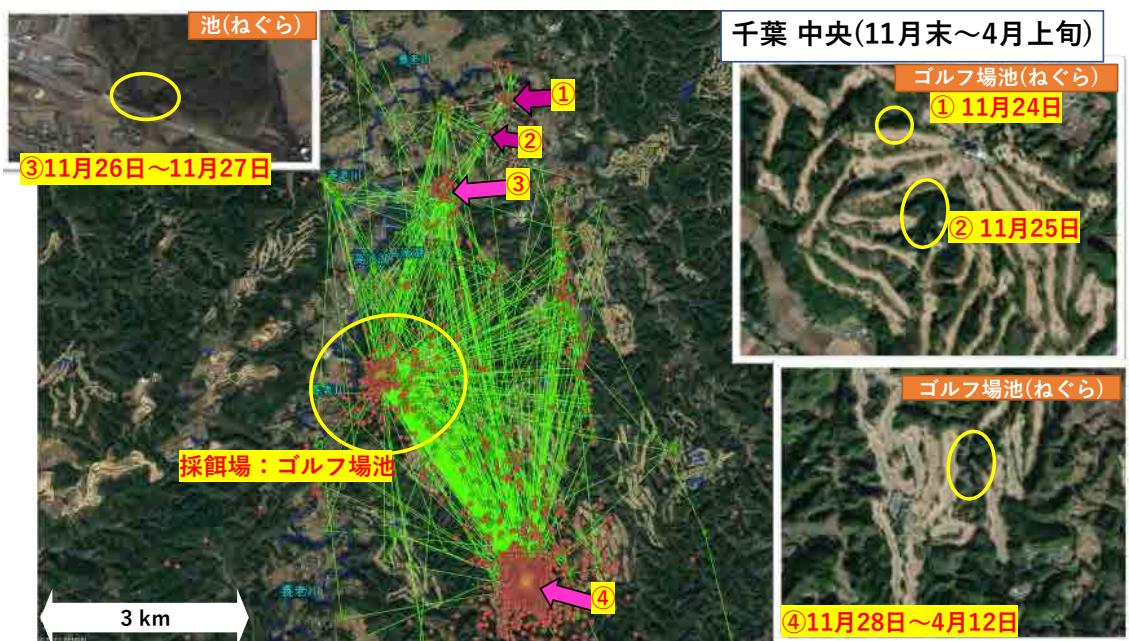


図-7 房総半島南東海岸における行動（上）と越冬地における行動（下）

11月11~21日まで、越冬地の房総半島中央部に移動する前に、房総半島の南東海岸で10日間ほど過ごした。この際、2つのねぐらを利用しているが、昼間の行動を見ると一か所に定住している様子ではなく、動き回っている様子が見て取れる（図-7上）。結局この場所には長居はせず、越冬地である房総半島中央部のゴルフ場の池で越冬した（図-7下）。越冬中は4つのゴルフ場の池に作られたねぐらを移動しながら、ゴルフ場の池で採

餌を行っていた（図-7 下）。

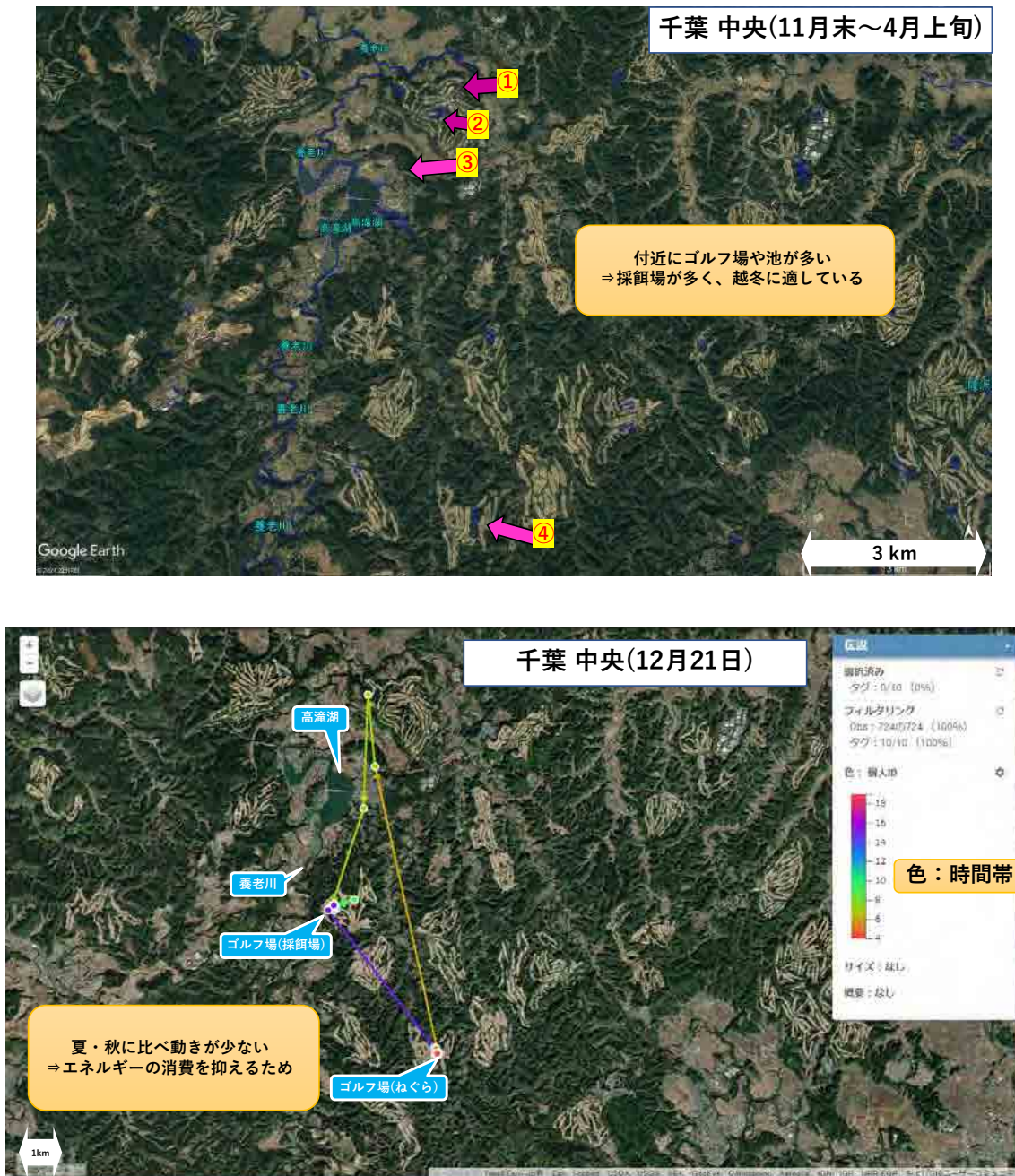


図-8 越冬地のカワウの採餌環境（上）と越冬中の1日の行動記録（下）

カワウが越冬していた付近は、養老川沿いでゴルフ場や池が多い場所だった（図-8 上）。このような環境が越冬中のカワウの採餌場として選択されているのは、ゴルフ場の中にある池に何らかの魚類資源が豊富にあるためと考えられる。また、越冬中の1日の行



動記録を見ると、夏・秋に比べ移動距離がすくないことから、エネルギー消費を押さえている可能性が死された（図-8 下）。

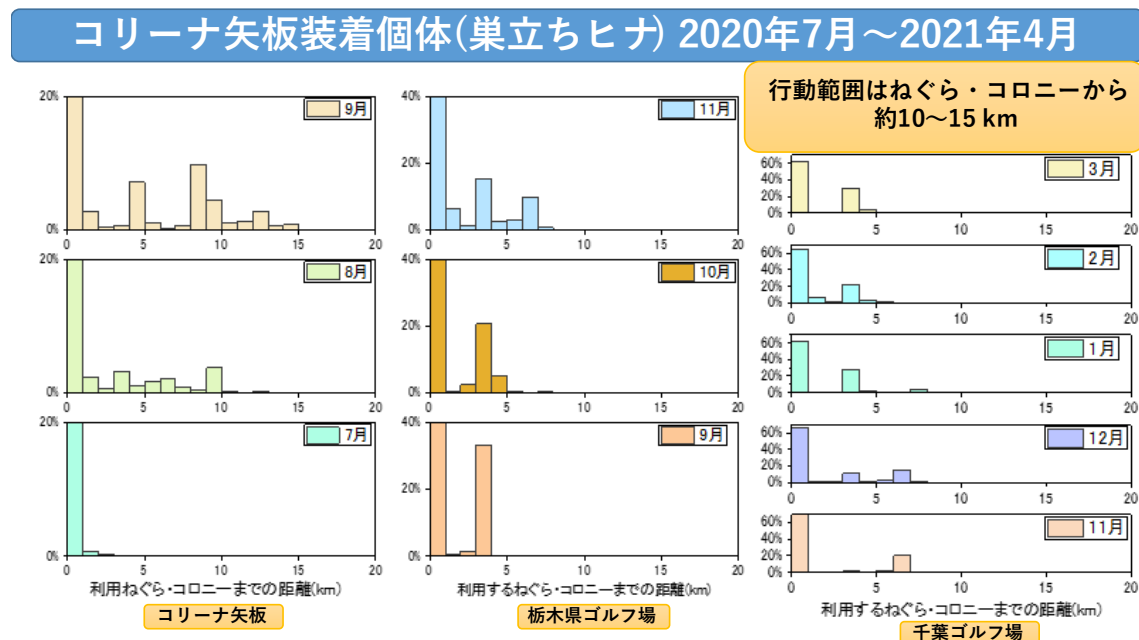


図-9 各季節のねぐら・コロニーからの行動範囲を示すヒストグラム

各月ごとにカワウが夜を過ごしたねぐら・コロニーと、昼間利用していた採餌場所の距離についてヒストグラムを作成してみたところ、最も活動的な9月でも15キロ以内、それ以外の月はほとんどが10 km圏内で行動していることが明らかとなった。

続いて、栃木県鬼怒川流域で放鳥した繁殖期の成鳥のデータについて紹介する。